

QE3終了へのカウントダウン

7 月に入ってからドル円相場は膠着推移を続けている。好調な米雇用統計を受けたドル上昇も長続きしなかった。

しかし、今後3ヵ月という時間軸では、従来の見方同様、やや円安ドル高が進むと見ている。米景気回復が続くことで現状の米低金利が正当化できなくなるためだ。また、10月とみられる米量的緩和(QE3)終了のカウントダウンが今後も進むことで、次第に米利上げに意識が向かいやすくなることも米金利上昇圧力となる。日米金利差が緩やかに拡大することでドル高圧力が徐々に強まるだろう。米金利上昇は、同時に米株安を通じたリスクオフの円買いを誘発する可能性があるが、その際にも米企業業績の回復期待が維持されることで、一時的な動きに留まると見ている。

ユーロ円相場は最近も方向感を欠く動きを続けている。6月のECB追加緩和がユーロ安材料として未だ意識されやすい地合いにあるとみられるが、日銀の緩和スタンスも強力だ。また、ユーロ圏の巨額の貿易黒字がユーロ円の下支えとなるため、3ヵ月後のユーロ円は現状比で横ばい程度と予想する。

長らく0.6%前後で推移してきた長期金利は最近下方シフトし、0.5%台前半から半ばでの推移になっている。ただし、この低水準に追隨できる投資家は少ないとみられ、3ヵ月後は米金利上昇などを材料として、若干上方に水準調整が入ると見ている。



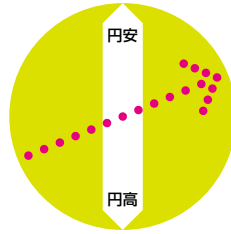
シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

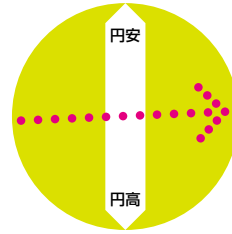


Market Karte

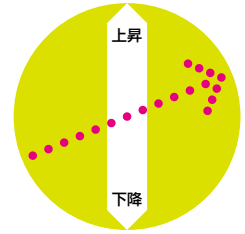
August 2014



ドル円・3ヶ月後の見通し



ユーロ円・3ヶ月後の見通し

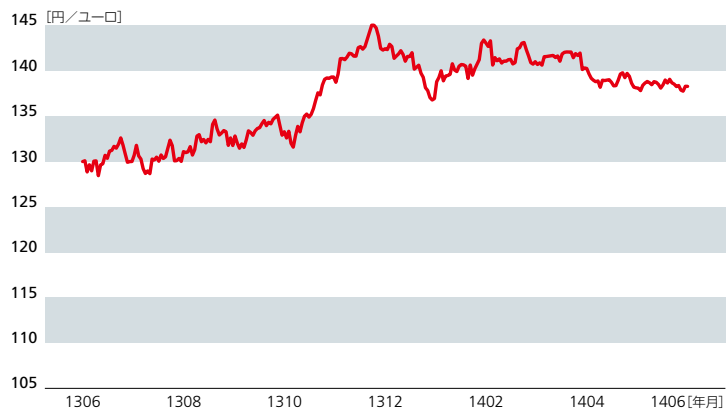


長期金利・3ヶ月後の見通し

ドル・円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ・円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

